

市政トピックス



新しいALITが着任

8月から新しいALIT（外国語指導助手）としてアメリカ出身の2人が着任しました。

着任したのは、カリフォルニア州出身のダイアナ・ベラフィオレさんとジョージア州出身のマリック・フィリップスさん。2人は8月8日に近藤市長を訪れ、ダイアナさんは「安来は自然が豊富で美しい」、マリックさんは「子どもとふれあつてハッピーにしたい」と話しました。ダイアナさんは小学校7校と伯太中を、マリックさんは幼稚園、保育所、認定こども園、安来一中を担当します。現在、市のALITは4人で、今年度から新たに保育所でも活動しています。



▲左からマリックさん、ダイアナさん、近藤市長。



▲日ごろの訓練による能力向上とともに、救命胴衣を活用して、市民の皆さんの安心・安全を守っていきます。

消防団に救命胴衣を 配備し水害に備えます

市では消防団員用に救命胴衣を配備し、団員の安全確保に努めることにしています。購入にあつては、一般財団法人自治総合センターの宝くじ社会貢献広報事業（宝くじの助成金）を活用。河川の氾濫などの水害時に、地域住民の避難誘導および防災・救助活動に利用します。

近年、大雨による大規模な水害が全国的に発生しています。このため、国が定める消防団員装備基準が見直され、団員の安全を確保する救命胴衣は基本装備品のひとつになっています。今後は、この装備を活用して、防災・減災に努めていきます。

日本遺産認定記念講演 in 安来 近年の発見で金屋子神の解明が進む

今春、たたら製鉄の文化遺産が日本遺産に認定されたことを記念する講演会（主催：安来市・安来市教育委員会）を8月21日、和鋼博物館で開催しました。はじめに市長が「認定を機に雲南市と奥出雲町と連携を深めていきたい」とあいさつ。「出雲國たたら風土記」として認定された構成文化財群が教育長より報告されました。

引き続き行われた記念講演会では、島根大学法文学部の山崎亮教授（専門：宗教学）が「金屋子神とたたら製鉄」をテーマに講演。近年、氏子宅や田部家



▲会場となった和鋼博物館映像ホールは満席となり、日本遺産への関心の高さと期待がうかがえました。



▲8月4日には安来市内で「鉄の道文化圏」の総会が開催され、商工団体や観光協会、旅行事業者等で組織される「日本遺産プロジェクトチーム」が発足。誘客に向け取り組んでいきます。

文書、広島県北部の神社で新たな発見が相次いだ金屋子神の伝承を紹介しました。これらの伝承は、一般的に知られてきた金屋子神話（兵庫県から白鷺に乗つてこの地の桂の樹の枝に飛来した話）とは異なる伝承となっています。

これについて山崎教授は、「新たに見つかった伝承と、考古学的な発掘を照らし合わせると、中世の広島県北部から近世の出雲地方に移つていった「たたら製鉄」のルーツと重なる部分がある」と、金屋子神の解明に新たな光が投げかけられていると話しました。

